

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）

強度変調放射線治療の臨床評価に関する研究

分担研究報告書

研究分担者 権丈雅浩 広島大学大学院放射線腫瘍学講座 助教

本邦における高精度放射線治療の実態調査を行うための班会議での検討を踏まえて調査の準備を進め、実地調査を実施した。前立腺癌、頭頸部癌、原発性肺腫瘍に対する強度変調放射線治療と定位放射線治療の実施状況を医療機関への直接訪問による診療記録の閲覧を通して調査した。放射線治療現場における高精度治療の着実な普及が裏付けられるとともにシステムの違いによる施設間の差異も認められた。またマンパワーの確保は重要な課題である。

A．研究目的

強度変調放射線治療、定位放射線治療および高精度の三次元原体照射に関わる治療の実施状況を現場への直接訪問およびアンケートにより調査する。多施設の調査結果を基に本邦における高精度放射線治療の診療実態を把握し、問題点を抽出し改善を提言する。

B．研究方法

1．Patterns of Care Studyの研究で蓄積した訪問調査の手法を踏まえて高精度放射線治療を評価する。2．実際の調査を行い、結果を解析して問題点を抽出する。(倫理面への配慮)

個人情報保護法を遵守し、患者個人の特定につながる情報を収集することはない。診療記録に基づく具体的な治療内容の調査を行うが、個人情報は各医療機関から外部に発信されることがないようにする。倫理面の最終的責任は主任研究者が負う。

C．研究結果

平成24年度までに作成した高精度放射

線治療に関する実態把握の方法を用いて施設訪問調査を実施した。治療装置、治療計画装置とマンパワーなど体制に関わる問題、強度変調放射線治療、定位放射線治療などの対象となる疾患の数、治療実施に当たって用いる精度管理などの項目を詳細に調査し班長に報告した。結果をまとめて班会議で検討した。

D．考察

本研究の結果、急速に普及しつつある本邦の高精度放射線治療の診療実態が明らかとなった。施設への直接訪問調査によりアンケートのみでは知り得ない情報の収集が可能であった。班長からなされる提言は今後の本邦の放射線治療の診療の向上に貢献しうるものと考えられる。

E．結論

本邦における高精度放射線治療の実態調査を実施した。強度変調放射線治療および定位放射線治療の着実な普及が裏付けられ、精度の高い治療が日本全国で行われつつある状況が把握できたが、改善を要す

る点も取り上げられた。

F . 研究発表

1. 論文発表

- 1) Honda Y, Kimura T, Aikata H, Kobayashi T, Fukuhara T, Masaki K, Nakahara T, Naeshiro N, Ono A, Iyaki D, Nagaoki Y, Kawaoka T, Takaki S, Hiramatsu A, Ishikawa M, Kakizawa H, Kenjo M, Takahashi S, Awai K, Nagata Y, Chayama K. Stereotactic body radiation therapy combined with transcatheter arterial chemoembolization for small hepatocellular carcinoma. J Gastroenterol Hepatol. 28(3) , 530-536, 2013.3
- 2) Kimura T, Takahashi S, Kenjo M, Nishibuchi I, Takahashi I, Takeuchi Y, Doi Y, Kaneyasu Y, Murakami Y, Honda Y, Aikata H, Chayama K, Nagata Y. Dynamic computed tomography appearance of tumor response after stereotactic body radiation therapy for hepatocellular carcinoma: How should we evaluate treatment effects? Hepatol Res. 43 (7) , 712-717, 2013.7
- 3) Takahashi S, Kimura T, Kenjo M, Nishibuchi I, Takahashi I, Takeuchi Y, Doi Y, Kaneyasu Y, Murakami Y, Honda Y, Aikata H, Chayama K, Nagata Y. Case Reports of Portal Vein Thrombosis

and Bile Duct Stenosis after Stereotactic Body Radiation Therapy for Hepatocellular Carcinoma. Hepatol Res.. Epub ahead of print, 2013.9

- 4) 権丈雅浩 コンツールリングを学ぼう-食道癌 臨床放射線 58(13), 1826-32, 2013.12

2. 学会発表

- 1) 権丈雅浩, 久保忠彦, 下瀬省二, 藤森 淳, 中島健雄, 土井歆子, 兼安祐子, 村上祐司, 木村智樹, 赤木由紀夫, 永田 靖, 悪性軟部組織腫瘍に対する術後組織内照射の検討 第26回日本放射線腫瘍学会(青森市) 2013.10.18-20

G . 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

